



世界の日本語教師に、新型コロナウイルスの前と後で、それぞれの地域においてどんな変化があったのかを尋ねてみようと思いたち、企画したのがこの特集である。ほとんどすべての地域でオンライン授業が導入され、日本語教師たちは日本の外国語教師と同じような試行錯誤を繰り返しつつ授業を行っていた。そして、ネット環境による格差、積極的な授業参加、試験方法などの問題が浮かび上がった。他方、パンデミックという環境において、積極的かつ自発的に勉強する学習者がいることもわかった。そういう人たちのことを考え

小特集

世界の日本語教師に聞く

パンデミック後の言語教育のために

ると、日本が日本語を学ぶに値する社会であってほしいと思うし、学習者が日本に来た時に彼ら・彼女らの期待を裏切ったり、悲しい思いをさせたくないと思う。

また、日本語教育も外国語教育も言語教育だが、言語教育が政府の方針に依存し、簡単に人員を削減されてしまうものであるなら、今後、言語教育の意義を明確にし、その存在意義をアピールしていくべきであろう。以下のエッセーは、そんな問題を再考するきっかけにもなると思う。

(山下仁)

[01] アメリカ 社会公正と 差別、格差

佐藤慎司
さとら・しんじ



コロナ渦で長い間床屋に行かなかった私 (写真: 高橋裕子)

今回の新型コロナウイルスの影響で、アメリカではアジア人が差別を受けている事例が多数報告されています。トランプ前大統領自身も新型コロナウイルスのことを「中国ウイルス」と呼びつづけ、その発言は大きな波紋を呼びました。またご存知のように2020年5月25日にはミネソタ州ミネアポリスでアフリカ系アメリカ人ジョージ・フロイドが白人警察官に窒息死させられました。この事件を発端に、アメリカではBlack Lives Matter (黒人の命も大切だ) 運動が各地で起こり、現在では世界中に広がっています。また、これらの差別問題は、コロナウイルスにより外に出られない、あるいは、外に出てもストレスになることもあって、メンタルヘルスの問題にも結びついています。

ここで考えたいのは、このような問題は移民の多い「多民族」国家アメリカだけの問題なのかということです。

すでに1年ほど前になりますが上記のジョージ・フロイドの事件後、2020年6月2日には、ACTFL (American Council on the Teaching of Foreign Languages, 全米外国語教師会) が声明(図)を出し、全米日本語教師会 (Association for Teachers of Japanese: AATJ) もそれを全面的に支援しています。

われわれの携わっている外国語教育としての日本語教育は(「継承語話者」を除く)もともと自分たちは「違う」文化と言語を学ぶことを目的としているものであり、その「違い」はときに差別という感情とも密接に結びつくこともあります。現にことばの教育は植民地での日本語教育、標準語教育などでその差別を煽るような活動をしてきたことがあるのも事実です。

また、遠隔授業への移行により、今までとは違った形でさまざまな経済格差を見せつけられることにもなりまし

た。諸々の事情で帰る場所がなく大学の寮に残らざるを得ない学生、台所やリビングルームで必死に勉強に取り組もうとする学生、自宅のインターネットの接続が不安定であるにもかかわらず何とか学習を続けようとする学生がいる一方、いかにも豪邸というような部屋から授業を受けている学生もいました。教員として頭では分かっていたつもりでも、学生の背景に映し出されるさまざまな環境の情報(あるいは背景情報を映し出すことを好まない学生)は、予想以上のもので正直驚きを隠せませんでした。

これらの差別、格差の問題は社会公正 (Social Justice) と大きく関係しています。全米日本語教師会では2020年8月に Promoting Social Justice and Antiracism in Japanese Language Teaching (日本語教育における社会公正と反人種差別主義) と題したウェ

ビナーが、久保田竜子先生、Michelle Lupisa 先生、Clayton Frederick 先生により開催されました。どのように言語を用いるかということは、ヘイトスピーチに代表されるようなあからさまに攻撃的な使用だけでなく、日常の些細なやりとりにも様々な力関係が内包されているため、社会公正と密接に絡んでいます。社会の、そして、自らの言語使用を批判的に振り返ることは、社会公正を考える大切な第一歩です。そして、今後どのような社会・コミュニティを築いていきたいのか、どのような自分になりたいのかということは、この社会公正の問題とは切っても切り離せない関係にあります。ですから、日本語教育を含めたことばの教育は積極的にこの社会公正の問題について真剣に取り組んでいく必要があると私は考えています。

✂

ACTFL の声明

言語教育者としてわれわれはこの国の若者たちが世界観を築きあげるための中心的役割を担っている。われわれは、自分たちの生徒、同僚を、そして、この職業を、人種差別や憎悪から守るだけでなく、反人種差別主義者からも守る必要があるのだ。

(<https://www.actfl.org/news/press-releases/actfl-statement-the-killing-george-floyd-and-systemic-racism-the-us>)

The screenshot shows the ACTFL website interface. At the top, there are navigation links for STORE, COMMUNITY, SIGN UP, and SIGN IN. Below that is a search bar. The main content area is titled 'ACTFL STATEMENT ON THE KILLING OF GEORGE FLOYD AND SYSTEMIC RACISM IN THE U.S.' and includes a 'FOR IMMEDIATE RELEASE' notice. The text of the statement is visible, starting with 'Alexandria, VA (June 2, 2020) - We are horrified by the killing of George Floyd in Minneapolis...' and discussing systemic racism and the role of language educators. There are also social media links for Twitter and Facebook.

イタリア、インド、インドネシア……、
つづきは、本誌どうぞ！